

伊勢湾貧酸素情報（第 5 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下しており、三重県の沿岸域に沿って広い範囲に 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されています。

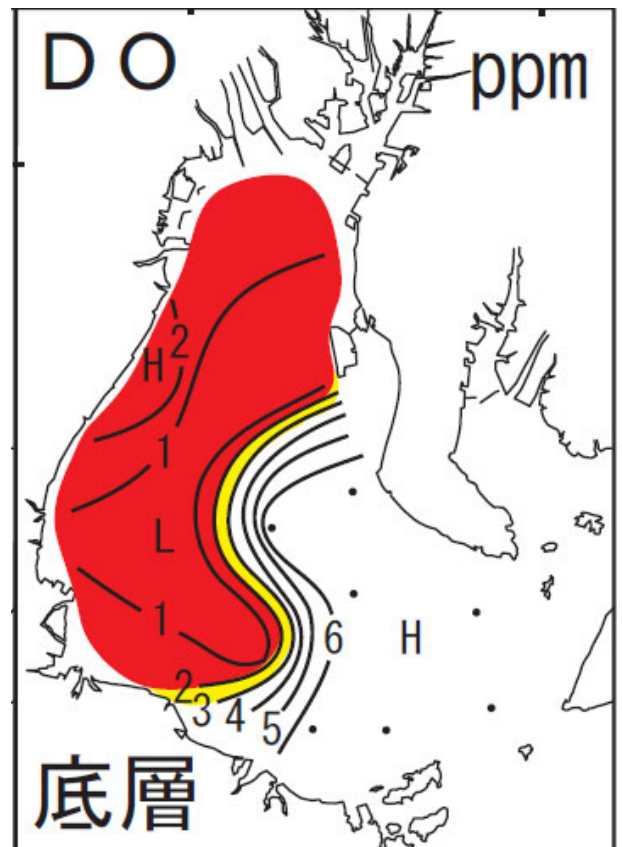
10月5日の調査結果

10月5日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 21.2～22.9℃、10mで 22.6～23.9℃、底層で 22.2～23.8℃の範囲にあり、表層は平年並、10mと底層ではやや高めとなっていました。

DO（溶存酸素量）は表層で 6.8～11.8ppm、10mで 1.2～7.5ppm、底層で 0.4～6.6ppmの範囲にあり、表層、10m、底層とも平年並となっていました。

底層では三重県の沿岸域に沿って広い範囲に 2ppm以下の貧酸素水塊が形成されています。

伊勢湾では、今後海水の上下混合が起りやすい時期となるため、貧酸素状態は徐々に解消に向かうものと思われます。



底層貧酸素水塊分布図